

# レッスン

作・中野 守（中野劇団）

登場人物

先生

純子

奏者

先生と純子がコンクールに向けてレッスンをしている。隅で何の楽器かわからない奏者が椅子に座って待機している。

純子 カマラヤニタ、マホラソネ、ンカタパヤラワー。シポロロアパノパヤー。

難しそうな表情で聞いている先生。

純子 ブンシヨボレンシヨタツクナイ、チヨペ、ンチヨペ、ンソワツホヨ、マツソヨ、チャー

ンチャグホツ。

先生 違うでしょ。最後はそうじゃないでしょ。ちゃんと家で練習してきたの？

純子 しました。

先生 いい？ ずん子ちゃん。

純子 純子です。

先生 ただ音を拾うんじゃないの。心の流れを理解しなきゃ。ガチャピニウスの中期の作品は、どれも繊細さが命なの。もう一度。ズンシヨから。

純子 ズンシヨボレンシヨタックナイ、チョペ、ンチョペ、ンソワツホヨ、マツソヨ、チャー  
ンチャグホツ。

先生 違う。何度言ったらわかるの？ そこは前にマツソヨがあるでしょ。マツソヨの  
意味は？

純子 …わかりません。

先生 先週も言ったでしょ？

純子 すみません。

先生 コンクール近かって自覚ある？ マツソヨはセミの抜け殻の中にチョコを流し込

んで作るお菓子のことよ。いい？ ずん子ちゃん。

純子 純子です。

先生 当時、ノンベンタラリツヒ伯爵領では、セミの抜け殻は離れて行く恋人達の心を  
諭えるものだったの。情景を浮かべながらじゃないと、伝わらないでしょ。セミ  
の抜け殻の気持ちになれてないんじゃない？

純子 すみません。

先生 もう一回やってみて。

純子 はい。何処から…。

先生 ズンコから。

純子 …ズンシヨからですか。

先生 そう。

純子 ズンシヨボレンシヨタックナイ、チョペ、ンチョペ、ンソワツホヨ、マツソヨ、チャー  
ンチャグホツ。

先生 違うう。

純子 …。

先生 いい？ 第3チョベリが始まってからずっとへロ、コカ、へロの繰り返しなの

ここで初めてアへなのよ。わかる？

純子 んん？

先生 もう一回。

純子 はい。ズンシヨボレンシヨタックナイ、チョペ、ンチョペ、ンソワツホヨ、マツソヨ、

チャーンチャグホツ。

間。

先生 どうしちゃったの？ 具合悪いの？

純子 …大丈夫です。

先生 いい？ 先生がやるからよく聞いてて。

純子 はい。

先生 (奏者に) F頂戴。

奏者 エフ(口で言う)。

先生 …ズンシヨボレンシヨタックナイ、チョペ、ンチョペ、ンソワツホヨ、マツソヨ、

チャーリーチャピオヌッフ！

間。

純子 …。

先生 先生がやったの、何処が違ったかわかった？

純子 はい…。

先生 情景を思い浮かべて。ノンベンタラリツヒ伯爵家のチヨビヒゲーラ四世と平和部隊の女性リーダーポチャーリーネの恋の終焉を予感させる重要な箇所なのよ。ずん子ちゃんも…。

純子 純子です。

先生 好きな男の子くらいいるでしょ。

純子 はい。

先生 …付き合ってるの？

純子 はい。

先生 そ。恋愛は自由よ。でもね、そのせいでコンクールを台無しになんてことしないでね。

じゃあ、もう一度ズンコから。

純子 ズンシヨからですか。

先生 そう。

純子 ズンシヨボレンシヨタツクナイ、チヨペ、ンチヨペ、ンソワツホヨ、マツソヨ、チャ  
ンチャピヨヌツフ！

先生 よくなったじゃない。さつきと全然違うわ。

純子 だって全然…。

先生 じゃあ、続きよ。ここからは裏ベツカンコに転調するから注意してね。

純子 はい。デベツサ、レポポポポ、クドン、クルワーチヨ、ポコツ、ポフツ。

先生 違う！そこは髪の毛をこう！

純子 はい。

先生 もう一度、デベツサから。

純子 はい。デベツサ…。

終わり。